

祝 日野町消防団



全国大会優勝

10月19日(金)、富山県広域消防防災センターで開催された第26回全国消防操法大会で、小型ポンプの部に出場された日野町消防団が滋賀県勢初の全国優勝を成し遂げられました。「消防団の甲子園」とも呼ばれる

この大会は、2年に1度開催され、各都道府県大会を勝ち抜いた48チーム(開催県は2部門に出場)が「ポンプ車の部」「小型ポンプの部」の2部門に分かれ、速さ・正確性・規律の正しさを競い合います。

この大会は、全国消防団員の消防技術の向上と士気の高揚を図り、消防活動の充実発展に寄与することを目的として開催されています。

当日は雨が降る中、会場にはそれぞれの出場チームの団員や家族、OBなど1万人を超える応援団が駆けつけました。

全国大会初出場となる日野町消防団は、多くの仲間から「がんばれ」「よっしゃ」などの大声援を受け、堂々とした操法を披露。小型ポンプの部で91点(タイム40.72秒)という高得点を叩き出し、見事優勝されました。

日野町消防団チームは、今年5月中旬から操法訓練に取り組み、8月5日に行われた県の大会で優勝。

全国大会への切符を手に入れられました。県大会優勝後も、週3回のペースで早朝5時から日野消防署で練習に励まれ、今回の輝かしい栄冠を勝ち取られました。

第26回全国消防操法大会・小型ポンプの部

	都道府県	消防団名	総合得点	タイム
優勝	滋賀県	日野町消防団	91.0点	40.72秒
準優勝	鹿児島県	長島町消防団	89.5点	42.34秒
//	兵庫県	福崎町消防団	89.0点	41.09秒
//	岐阜県	下呂市消防団	88.5点	41.73秒
優良賞	広島県	福山市消防団	88.5点	42.14秒
//	島根県	益田市消防団	87.0点	41.74秒
//	山口県	山口市消防団	86.5点	42.61秒
//	佐賀県	鹿島市消防団	86.5点	43.63秒
//	青森県	南部町消防団	86.0点	40.85秒
//	富山県	砺波市消防団	85.0点	43.51秒

出場選手(敬称略)

指揮者 東(あきま) 武司(たけし)
 1番員 滝口(たきぐち) 善紀(よしのり) (豊田)
 2番員 吉村(よしむら) 慎太郎(しんたろう) (曙)
 3番員 高木(たかぎ) 大輔(だいすけ) (迫)
 補助員 三添(みつぞえ) 保(たもつ) (三十坪)



日野町消防団
あづま 東 武司 さん

先輩からの誘いをきっかけに入団し、今年で7年目になる東さん。会社員として働きながら、消防団活動をされています。活動は月2回程度、主に機械器具点検や、今後の分団の行動を決める班長会をされています。日野町の消防団は3分団で構成されています。日野・西大路・鎌掛地区の第1分団。東桜谷・西桜谷地区の第2分団。必佐・南比都佐地区の第3分団。そして、幹部を合わせた総勢185人が活動されています。

入団する前と現在

消防団に入り「関わる人の年齢層が広がり、人脈が広がりました」と話す東さん。

また、消防団に対するイメージも変わったそうです。

「入る前は、(火事などの)いざという時には、(消防団は)大事なことなんやと思いつつながら、でも、誰かが



やってくれたら良いのに、という気持ちには正直ありません」

入団当初も、そういった気持ちを持たれていたそう。しかし、操法の練習をしていく内に気持ちに変化が生まれ、「練習を通して、仲間意識や団結力が芽生え、前向きになりました」と、取り組む姿勢が前向きになったことや、入る前に抱いていたイメージとの違いを話してくださいました。

消防団は、有事の時は現場に行き、消火に使う水の確保、交通の誘導、暗い場所を照らすなど、消防署の活動をサポートします。

「有事の時にきびきび動けるか、現場の空気を感じられるか。そういう

ったことが大事」という言葉から、練習の大切さを感じられました。

消防団の良さについて、「いざという時に、力を合わせて皆で行動できる。共通の意識を持って行動できる仲間がいる」と、団員との絆の深さが窺えました。

負けてないな!と確信

全国大会当日、雨が降る中、それぞれの出場チームの家族や団員など、1万人以上の応援団が訪れ、会場は熱気につつまれました。

「他チームの操法を見て、『負けてないな』と思いました。本番では、いつも通り程良い緊張感を持つてできました。手ごたえもありましたし、周りからも『良かったよ』と声をかけていただいたので、もしかしたらと思いました」

操法の点数やタイムは、会場のモニターで随時流れるようになっていたそうです。

「そろそろ自分達の点数が出る頃やな、という時にモニターを見に行くと、点数が出て、選手の控え室では、他チームの選手達も『おおー』とどよめいていたので、『やったんやな』と思いました」

90点以上の点数は大会で唯一日野町のみ。練習に励まれた結果が実を



結んだ瞬間でした。

「色んな人のサポートがあつてできたことです。恩返しというか、もう少し役立てることがあれば、これからも消防団を続けていきたい」と述べられました。

これから入団される方に

「マイナスイメージを待たれている方も多いと思います。でも、どうせやるんやったら、自分が楽しめるように。いかに全うできるか。いかにやりきれるか。前向きに行動出来た方が楽しいと思います。皆、最初は同じ思いから始まっているので(笑)。大丈夫です」と話してくださいました。